

「アメリカ禅」を特集

三巻目の論文集刊行



横浜善光寺留学僧育英会（黒田武志理事長）は、第十二回生から十四回生まで十三人の育英生の論文を収録した『論文集Vol.3』をこのほど刊行した。黒田理事長の実兄でロサンゼルス禅センター仏真寺を拠点にアメリカ社会へ曹洞禅を弘めた故前角博雄老師を偲ぶアメリカ禅の特集が組み込まれている。

同育英会は昭和六十年度の第一回から平成十年度の第十四回までに延べ八十八人の留学育英生を海外へ送りまた日本に受け入れてきた。派遣国は世界十三カ国、受け入れ国は九カ国・一地域に及んでいる。その歩みを記録する論文集を過去二巻刊行しており、今回で三巻目となる。いずれも中外日報社が編集・印刷。

第三集は、開創三十周年を迎えたロサンゼルス禅センター仏真寺の主管としてアメリカ社会に曹洞禅を根付かせた故前角博雄老師の足跡を記録する追悼集にもなっている。

前角老師は平成七年五月、日本滞在中に急逝し、曹洞禪の世界布教にとつて多大な損失と惜しまれた。論文集にはアメリカ各地で禪を實踐する弟子たちが追悼の言葉を寄せている。

巻頭に東方学院長の中村元博士（東京大学名誉教授）、曹洞宗の乙川良英宗務総長が序文を寄せ、黒田理事長の道業を高く評価している。

また黒田理事長は巻頭言の中で「偉大なる業績を残した我が師・我が兄前角博雄老師」とともに生きた自らの人生を振り返り、「禪が欧米社会に定着し、これほどの広がりを見せたのは、前角老師があきらめることなく何年も何年もかかって耕した畑に、さらに何年も蒔きつづけた小さな種がやつと芽を出し、花開かせたということだと思えます。念ずれば、花開く……。兄は、私に、その生き方によって真の仏の道を教えてくださいました。兄が咲かせたこの花を、決して枯らせてはならない——これは私たち後

を継ぐものの使命だと感じています」と決意を新たにしている。

育英生の論文に続いて、「アメリカ禪」の特集が生まれ、駒沢女子大学・東隆眞学長の「山の禪サンガと街の禪コミュニティ」や「定着し発展するアメリカ禪」の論文、及び「瑩山禪師と女性」と題する講演、明治大学・阿部慈園教授の「アメリカ西海岸の禪センターを訪ねて」、さらに前角老師の弟子たち九人による追悼文を収載している。

A 五判 三一二ページ 頒布価二、〇〇〇円
成寿山善光寺発行